

付属資料に関する機能仕様書

成田市立図書館

変遷 第5次図書館システムから第7次図書館システムまでは、付属資料管理をサブシステムとして構築し、貸出許諾の管理、資料への添付の管理を行ってきた。

しかし、資料の付属ものは、サービスのインターネット化の影響により、オンラインアクセス権の付与等に変わってきており、資料点数は減ってきていることから、独自システムを構築することは終了するものである。パッケージに機能があればそのまま継続は不可ではなく、新たな構築は不要とするものである。

機能 CD、CD-ROM、DVDなどの著作権上の確認が必要がメディアの添付管理を行う。
ローカルデータに付属資料の所在「あり」「なし」「null」を入力する区分と、付属資料のメディア点数を入力する区分（リPEATブルが可能であれば、メディア、点数を繰り返し入力でも可能だが、文字列入力だけでも可）を設定する。
書誌データに「付属資料あり」「付属資料なし」「付属資料があるものとないものがあります」を表示させるための独自タグを設定、表示させる（入力、更新は図書館側作業。なお、ローカルデータの更新に合わせて書誌データの更新ができればなお可。）。
自動貸出機の利用の可否は、ローカルデータの自動貸出機可不可区分でチェックする（付属資料の区分は関係なし）。
返却仕分け機の処理の可不可をローカルデータの付属資料所在区分でチェックする。
「null」又は「なし」であれば処理し、「あり」であれば処理をさせない。

業務フロー

1)資料購入-2)受付管理処理-3)許諾処理（貸出可の資料は受入処理へ）-4)受入処理:貸出可→装備、データ処理/貸出不可→未装備、データ処理

●処理対象

図書、雑誌に付いてきた全ての付属資料（メディア）

●受付管理簿（EXCEL管理：図書館が作成維持管理するもの）

NSIN、ISBN、タイトル、メディア種類、記載事項（許諾記載あり、貸出可、許諾処理）、依頼日、回答期限日、回答内容、異動日（不明、除籍）

●依頼書、回答書（Wordのひな形からExcel管理簿から宛先等自動生成：図書館作成）

●ローカルデータ登録

所在区分「あり」「なし」「null」

メディア区分、点数（区分登録、点数設定でも可、文字列入力でも可）

ex) CD, 2点、DVD, 1点

自動貸出機可不可「可」（図書館側運用で原則は可）

●書誌データ登録

独自タグ「付属資料あり」「付属資料なし」「付属資料があるものとないものがあります」を規定文字列選択か文字列入力